

《各学部におけるキャリア教育の取り組みを紹介します》

学校教育目標（性に関する指導目標）として、「自己の心身の発育・発達、男女の性差に関する基本的事項を理解すると共に、自己を大切にしようとする心を育てる。」という一文があります。自分の体のことを知り、自分を大切にする気持ちを育てることが重要となります。

そのための基本的汎用的能力（求める力）として、自己管理能力・自己理解（身辺自立・生活習慣）などがあります。排便後の適切な処理、生理に関する適切な対応など、卒業までに身に付けたい力です。小学部からの取り組みが土台となっていきます。そのような力を身に付けていく活動を紹介します。

高等部 生活習慣が整い、規則正しい生活をする。

中学部 基本的な生活習慣の確立を図る。

小学部 基本的な生活習慣を身に付ける。

「キャリア発達の視点で児童生徒の能力を育てる」という意識で同じ能力を段階的に積み重ねます。

<小学部4年生 生活単元学習「思春期の体の変化」>

4年生女子を対象にした性教育（生理について）が行われました。どのように教えていくか悩む保護者の方も多岐にわたる内容です。

まずは、どのような状態になるのかや、その処置方法について養護教諭から説明を聞きました。出血のことなど初めて知る児童もおり、興味深く、そして時々心配そうな表情も浮かべながら聞いていました。具体物を使用してどのように使うのかを実体験しながら学習しました。初めて生理用品を見る児童も多く、自分から進んで使い方を練習していました。

生理に関して適切に対応することは、就労に向けての学習としても大変重要なものです。小学部段階から積み上げていき、高等部卒業までに適切に処置できるように支援を継続していくことが不可欠です。



<中学部1～3年生 保健体育「健康的な生活」「清潔な体」「心身機能の発達と心の健康」>

健康的な生活、清潔な体、思春期の心の変化などをテーマとして、グループに分かれて授業を行いました。健康的な生活では、食べること、寝ること、運動することについて学習しました。清潔な体では、排便後のお尻の拭き方や下半身の洗い方について学びました。また、異性との関わり方についての大切なルールについて考えました。異性に興味をもつことは

自然なことで、心も成長している証拠ですが、その中にはルールが存在し、今後大人になるにつれてもそのルールを守ることが必要であることを学習しました。



<高等部1学年 保健体育「体の特徴」「異性とのかかわり方」>

高等部1学年では、主に保健体育の授業時に性教育を1年間通して行っています。卒業後の生活なども見据えながら、異性との適切なかかわり方や、より良い関係の築き方について学習を進めています。実際に友達同士で会話をするといったロールプレイングなどの体験的学習を通して、異性と話をするときの適切な距離について考えたり、「セクシャルハラスメント」や「プライベートゾーン」、「わいせつ行為」、「ストーカー行為」などといった言葉から、異性とのかかわり方について、教師や友達と話し合ったりすることができました。その中で、異性に興味をもつことや、人を好きになる気持ちの大切さについても学ぶことができました。そして、好きになったり興味をもったりした異性に対して、「相手の気持ちを尊重する。」「思いやりをもって話をする。」などと、自分の考えを発表することができました。性教育を通して、性的な知識だけでなく、人とのかかわり方について考えるよい機会になったと思います。今後も、学年に応じて性教育を継続して実施していく予定です。